

10 番 横井 さくら 議員

1 小中学校体育館の空調設備について

(1) 本市の小中学校体育館の空調設備設置は猛暑・避難所対策に急務である。大幅なコスト削減が見込め、北九州市で活用が進む「家庭用エアコンを活用した体育館向け空調システム」の導入により、児童・生徒の安全確保と防災強化を迅速に進める検討ができないか、以下2点質問する。

- ① 令和9年度に吾平小学校体育館の空調設備設置の計画があるが、今後の小中学校体育館の空調設備設置のスケジュールと予算の計画を示されたい。
- ② 家庭用エアコンを活用した体育館向け空調システムの小中学校体育館への導入計画を作成し、その費用を令和9年度予算に計上する考えはないか示されたい。

2 購入助成券制度の拡大による若い世代の支援と定住促進施策について

(1) 地域経済の活性化が期待できる地域買い物券給付制度を導入する考えはないか、以下3点質問する。

- ① 現行の「移住者応援金」に加えて、一定年齢以下の移住者に対し、地域買い物券給付制度を導入する考えはないか。
- ② 現行の「結婚新生活支援補助金制度」に加えて、40歳未満の全ての新婚世帯に対し、地域買い物券給付制度を導入する考えはないか。
- ③ 乳児のいる世帯に向けた現行の育児用品購入助成券を増額する考えはないか。

3 学校給食への有機食材の活用と学校給食予算の拡大について

(1) ここで用いる「有機」という言葉は、「鹿屋市有機農業推進方針」の定義に沿い、有機ＪＡＳ認証の有無に関わらず、農薬や化学肥料不使用などで栽培された農作物全般を指すものとする。文部科学省は学校給食への有機農産物使用促進に関する事業を地方公共団体へ委託するなど、近年は国もこの分野に力を入れ始めている。本市でも、農政課、教育委員会の努力により有機食材の活用が着実に進められており、市長も所信表明においてその推進を明言されたことから、多くの市民が今後の広がり期待を寄せている。一方で、「予算の制限」や「安定した供給量の確保」といった課題も浮き彫りになっている。そこで以下４点質問する。

- ① 学校給食における有機食材活用の意義について本市の認識を示されたい。
- ② 今後の学校給食への有機食材使用計画を示されたい。
- ③ 学校給食への有機食材活用の「推進方針及び計画」を策定する考えはないか示されたい。
- ④ 本年４月から開始された国の「学校給食費の根本的な負担軽減制度」により軽減された本市の財政負担分を学校給食の有機食材費に充当し、令和９年度の予算を確保する考えはないか示されたい。